



見かけることが少なくなった茅葺き屋根のある風景を未来につなごうと、昨年9月、一般社団法人ふらり(阿波)が補修作業の体験見学会を開催。茅葺きの家を守る大塚昭典さん(阿波)と、技術をつなぐ職人 山本進さん(加茂町公郷)、それぞれに聞いた思いを紹介します。

**ふるさとの風景を残したい**

「市外に出た兄弟が帰ってきたとき、懐かしくてあたたかい気持ちの思い出せるよう、ふるさとの風景を残しておきたかった」大塚さんの言葉です。「体験見学会に、たくさんの人が興味を持ってきてくれて驚きました。茅葺きのある風景を求めて、写真を撮りに何度も訪れてくれる人もいます。子どもが家を継ぐ予定はないので、これからどう残していくか」と今後への迷いを語ってくれました。

**地域に育まれてきた茅葺き**

岡山県内で数少ない茅葺き職人として活躍する山本さんは「茅葺き屋根を作るため、アメリカに行ったことがあります。雨漏りは心配ないと説得しましたが分かってもらえず、雨水対策をした屋根に茅を葺くことになりました。茅が持つ油が雨水をはじき、伝って下に流れるので、よほど傷まない限り、雨漏りはしません。自然の特性を生かした昔ながらの知恵です」と茅葺きの特徴を説明。屋根の造りは地域によって違い、津山は出雲地方の流れを汲んでいるそうです。「歴史、地理などのつながりで培われてきた風景ともいえます」と教えてくれました。

茅の押し切りを指導する山本さん(写真右)



体験見学会の様子

屋内のいろりの間を案内する大塚さん(写真中央)



新コーナー！  
津山の人・物・技術など、明日誰かに自慢したくなる津山のいいところを紹介します

1  
つやまじまん

ええとこ いっぱい 津山 自慢

残していきたい地域の風景  
茅葺きのある風景(阿波)

見かけることが少なくなった茅葺き屋根のある風景を未来につなごうと、昨年9月、一般社団法人ふらり(阿波)が補修作業の体験見学会を開催。茅葺きの家を守る大塚昭典さん(阿波)と、技術をつなぐ職人 山本進さん(加茂町公郷)、それぞれに聞いた思いを紹介します。

**技術と一緒につないでいきたい**

屋根に積もった約20年分のコケや土を落とし、新しく差し込む茅の束を押し切りし、状態を確認しながら傷んだ部分を差し替えていく。一つひとつを手作業で行う補修作業に要した時間は約1カ月。「風を相手にし、雨を相手にし、自然の条件に合わせて作業するので、根気が必要です。茅葺きの建物も、材料になる茅も減る中で、自分の技術と一緒に、地域の大切な風景を残していきたい」と語る山本さん。衆楽園の余芳閣や沼遺跡(沼)の復元住居の茅葺きなどを手掛けるほか、公民館などに茅葺きの模型を寄贈しています。

「さまざまな機会を通じて茅葺きの魅力を知ってもらい、これからの世代につないでいきたい」と笑顔で話してくれました。

人気のコーナー「今月の津山人」を「津山自慢」にリニューアルしました。これまでどおり人を取り上げるのももちろんのこと、人が作り出すものや技術場所などにも焦点を当て、知ると誰かに自慢したくなる津山の「ええとこ」をたくさん紹介していきます。今後、何が登場するか、皆さんお楽しみに☆

表紙を撮影しました。ドローンでの空撮は経験がありますが、日の出を撮影したのは初めてです。写真に写る穏やかな稜線を見てみると、津山盆地がかつて海(湖)だったといわれていることも納得できました。上空から眺めると、今まで気付かなかったことが見えてくるのも、ドローンの魅力の一つです。(三)

つやまじまん  
編集室

※ 10 ページ「美作の国つやま検定」の答えは、問1 = ③、問2 = ①、問3 = ①でした